

栃木・茨城・宮城県を中心とした豪雨被害に、東日本大震災を思い出した方もいらっしゃるかもしれない。被災地で産婦人科医として避難所の子どもや妊婦さんを訪問してまわった私はこの時、大人と子どもの癒やしのプロセスは違つたということを知りました。

子どもは、遊ぶこと、笑うことで少しずつストレスを消化し、周囲とのつながりを取り戻し、心を落ち着かせます。はた目から見ると「こんな非常時にふざけて」と映るかもしれませんが、心の回復のためには必要です。

また、避難所などで「水くみの順番を待つ時も妊婦だからと気を使われるのが嫌で黙っていました」と気兼ねする

国立保健医療科学院
主任研究官 産婦人科医

吉田穂波さん



母子のケア 実例を調査

妊婦さんに出会うことが多く、女性や子どもなど特別な配慮が必要な方々への対応や制度を改善する必要性を感じました。

そこで自分の支援先や留学先のネットワークを通じ、国内では約三十カ所の避難所を

が分かってきました。

対象として実際に震災に遭つたお母さんたちや保健師さんへ聞き取り調査。海外では約六十カ国の調査報告書から、災害時の妊産婦や乳幼児にどのような備えがあればよいのかをまとめました。

国際的な基準では災害時に母子を真っ先に避難させ、安心できる場所と睡眠と食事を確保するようにしています。基礎自治体や病院の方々とこれらの知見を共有し研修を行うと、母子を守るために必要な関係者を集めることとなり、災害時のためだけでなく、平時においても地域の連携づくりができるようになります。

※冊子の詳細はホームページ＝<http://honami-yoshida.jindo.com/>＝へ。

この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結核プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。

東北復興日記



154

